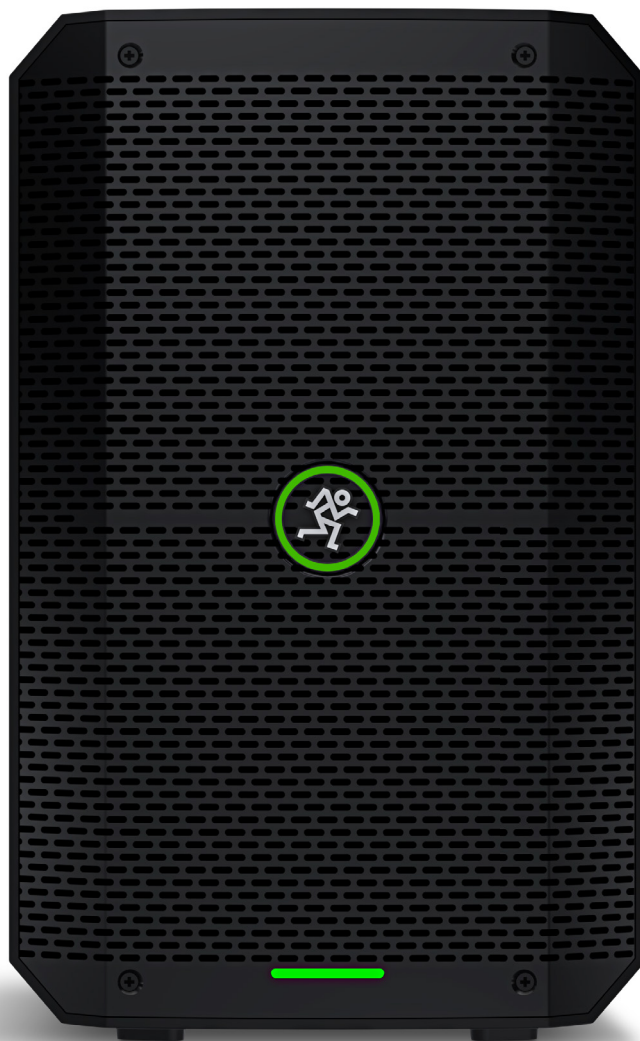


THUMP GO

8" Portable Battery-Powered Loudspeaker

日本語オーナーズマニュアル



安全のために

この製品を設置、使用される前に必ずお読みください。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いください。

本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について

		「必ず守ってください」という強制を表しています。			「絶対にしないでください」という禁止を表しています。
---	---	--------------------------	---	---	----------------------------

	警告	この記号は取り扱いを誤ると死亡や重症、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。
---	-----------	---

 必ず実行	本書を全て読むこと この製品を設置、使用する前に必ず本書を全てよく読み、本書の内容に従ってください。	 必ず実行	移動するときはケーブルを全て抜くこと 電源コードや接続ケーブルを接続したまま本体を移動しないでください。ケーブルを痛めたり、周囲の方が転倒する原因になります。
 禁止	水分をかけたり湿気にさらさないこと この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないでください。また、この製品を雨や霧にさらさないでください。感電や火災、故障の原因になります。	 禁止	本体内部に液体や物をいれないこと 火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼ください。
 必ず実行	電源コードや接続ケーブルは安全に配置すること 電源コードをストーブの近くなど高温になる場所に設置しないでください。また踏んだり物に挟んだり、無理な配線を行うと、電源コードが損傷して火災の原因になる場合があります。また足など体の一部を引っ掛けるような場所に配置しないでください。負傷の原因になる場合があります。	 禁止	改造を行わないこと 決して製品内部を開いたり、ユニットパネルを動かしたり、その他マニュアルに記載されていない調整を行わないでください。これらの行為は感電やその他災害に繋がる可能性があります。また、あなたの製品にも損害を与える可能性があります。製品内部を開くと、保証対象外となりますのでご注意ください。
 禁止	本体を落下しないこと 本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する原因になります。	 禁止	電源コードを濡れた手でさわらないこと 感電の原因となる場合があります。
 必ず実行	異臭や異常を感じたら修理を依頼すること 正常に機能しない、電源コードやプラグに異常がある等の場合は、修理をお申し付けください。	 必ず実行	長時間使用しない時や落雷の危険があるときは電源プラグを抜くこと 火災や感電、故障の原因になる場合があります。
 必ず実行	専用電源コードは仕様に適合した電源に接続すること 適合しない電源に接続すると、本体の故障、火災や感電の原因になる場合があります。	 必ず実行	電源コードは必ずこの製品に付属のものを使うこと 適合しないものを使用すると通電中に電源コードが加熱し、火災の原因になる場合があります。
 禁止	大音量で使用しないこと この製品をアンプやスピーカーなど他の機器と組み合わせて、大音量を再生しないでください。一時的または恒常的な難聴や、スピーカーなど接続している機器が故障する原因になる場合があります。	 必ず実行	他の機器と接続するときはこの製品の電源を切っておくこと 接続時に大音量のノイズを発生し、聴覚異常やスピーカー破損の原因になる場合があります。
 必ず実行	確実に接地すること（アース） 適合しない電源に接続すると、本体の故障、火災や感電の原因になる場合があります。	 必ず実行	電源ソケットに手が届くよう設置すること この製品の背面には電源を遮断する電源スイッチが付いています。この電源ソケットに簡単に手が届くよう設置してください。

**警告**

この記号は取り扱いを誤ると死亡や重症、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



禁止

本体の換気用開口部を塞がないこと

本体内部の温度上昇を防ぐため、この製品の表面には換気用開口部があります。この開口部を塞ぐと適切に換気ができず、内部の温度が上昇して故障や火災、誤作動の原因になる場合があります。



必ず実行

スピーカースタンドは安全な場所で、規格に適合するものを使用すること

この製品をスピーカースタンドに取り付けて使用する場合は、安定した場所に設置してください。使用するスピーカースタンドの耐荷重、取り付け方法等の仕様を守ってお使いください。使用方法を誤るとスピーカーが転倒し、近くにいる方が死亡または負傷する原因となる場合があります。



禁止

本体の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを使用しないこと

ガスが滞留して引火による火災などの原因になります。

**注意**

この記号は取り扱いを誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

本体は安定した場所に設置すること

本体を不安定な場所に設置すると、落下などによる故障の原因になります。



禁止

裸火を近づけたり熱源の近くに設置しないこと

この製品に直射日光を当てたり、ストーブなど熱源になるものの近くに置かないでください。本体が故障する原因になります。



禁止

ボタンやスイッチ、入出力端子に無理な力を加えないこと

本体の故障やお使いになる方が怪我をする原因になります。



禁止

テレビ、ラジオ、携帯電話の近くで使用しないこと
この製品またはテレビやラジオなどに雑音が入る場合があります。



必ず実行

スピーカーは定格範囲内で使用すること

定格範囲を超えるレベルや周波数を入力すると、スピーカーが故障する場合があります。特に歪にはご注意ください。



禁止

この製品に付属している電源コードをほかの電気用品に使用しないこと

この製品に付属している電源コードはこの製品専用のものです。ほかの電気用品には絶対に使用しないでください。



禁止

高温になる場所に設置しないこと

直射日光が当たる場所、熱を発するものの近くに置かないでください。製品の上でろうそくなど裸火を置かないでください。

修理

- 日本仕様の Mackie 製品の修理は、音響特機株式会社または提携サービスセンターで行っています。Mackie 製品の修理やメンテナンスが必要な場合は、次の手順に従ってください。
- 本書でご紹介しているトラブルシューティングの内容を確認してください。
- テクニカルサポートに電話、もしくは support_mackie@otk.co.jp にメールをし、「メンテナンス申込書」を請求してください。「メンテナンス申込書」に必要事項をご記入の上、03-5534-6783 へ FAX もしくはメールにて送付してください。折り返し修理受付番号と送付先のサービスセンターが記載された修理受付表を FAX もしくはメールにて返送致します。修理受付番号はサービスセンターへ送付される前に必ず取得してください。
- オーナーズマニュアルと付属コードは同梱しないでください。修理には必要ありません。
- 本体を梱包材とともに製品パッケージに入れて、サービスセンターへ送付してください。当社では輸送上のダメージを保証することができません。
- 修理受付番号が記載された修理受付表のコピーを必ず同梱してください。また送り状の通信欄にも、修理受付番号と商品名、製造番号を記載してください。修理受付番号のない修理品は受付できません。

保証

- 本機の保証はご購入後 1 年間となっております。
- 正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規定から除外されておりますので、予めご了承ください。
 - お客様による輸送、移動中の落下、衝撃など、お客様のお取り扱いが適正ではなかったために故障が生じた場合
 - お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造及び修理が行われている場合
 - 火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるいは異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合
 - 本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷
 - 正常な状態でのご使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故障あるいは損傷が生じた場合
 - 日本国外でご使用中の故障、損害

すべてのサポート・修理に関する情報は下記 Mackie 日本語ホームページをご参照ください。
mackie-jp.com/support

修理受付（商品センター）

〒136-0083 東京都江東区若洲 2-6-6 千住倉庫 1F B 棟
 株式会社日本システムサービス内
 ☎ 03-5534-6782
 📠 03-5534-6783

サポート問い合わせ先

✉ support_mackie@otk.co.jp

営業窓口

東京	東京都中央区日本橋小伝馬町 10-1 ☎ 03-3639-7800（代表） 📠 03-3639-7801
大阪	大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-4 7F ☎ 06-6152-7751 📠 06-6152-7752
名古屋	愛知県名古屋市東区泉 1-23-30 ☎ 052-950-3324 📠 052-950-3325
広島	広島県広島市中区富士見町 16-22-604 ☎ 082-258-2916 📠 082-2582917
福岡	福岡県福岡市中央区大名 1-4-1 ND ビル 5F ☎ 092-408-1775 📠 092-408-1776
仙台	宮城県名取市杜せきのした 2-2-16-101 ☎ 022-797-5281 📠 022-797-5282

営業日 月曜日～金曜日 9:00～17:30
 休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季

ご質問は電子メールでも承ります。

✉ sales_mackie@otk.co.jp

Contents

Thump GO の特徴

はじめに

このマニュアルの使い方

クイックスタート

その他の注意

接続図

リアパネルの機能

Thump Connect 2 アプリ

1. 電源コネクター
2. 電源スイッチ
3. XLR & TRS フォンコンボ入力端子 [Ch.1 & Ch.2]
4. 3.5mm ステレオミニフォン入力端子 (Ch.2)
5. MIC/LINE スイッチ (Ch.1)
6. GAIN ノブ (Ch.1 & Ch.2)
7. THRU 端子
8. MAIN VOLUME ノブ
9. VOICING MODES
10. OUTDOOR MODE ボタン
11. MUSIC DUCKING ボタン
12. FEEDBACK ELIMINATOR ボタン
13. FRONT LED
14. Bluetooth / PAIR ボタン
15. LINK ボタン
16. OVERLOAD LED
17. BATTERY LED

最後に

保護回路

AC 電源

お手入れとメンテナンス

設置について

ルーム・アコースティック

付録 A: サービスについて

付録 B: 技術情報

Thump GO の特徴

- 5 200W 超高効率 D 級パワーアンプ
- 6 カスタム設計高出力 8" ウーファー
- 6 1" コンプレッションドライバー
- 6 脱着可能なリチウムイオンバッテリー (同梱)
- 7 バッテリー残量が瞬時にわかる 3 色インジケーター
- 11 最大 12 時間バッテリー駆動可能
- 11 Bluetooth® ワイヤレスストリーミング
- 11 Bluetooth® ワイヤレスコントロール可能な Thump Connect 2 アプリ
- 2 本の Thump GO をワイヤレスリンクし、1 台のスマートフォンからワイヤレスストリーミングとコントロールが可能
- 12 XLR ミックスアウト端子を装備した 2 チャンネルデジタルミキサー搭載
- 12 瞬時に不快なハウリングを回避できるフィードバックエリミネーター
- 12 用途に合わせて選択できる 4 種類のスピーカーモードプリセット
- 13 Ch.1 を優先し、Ch.2 のレベルを自動で下げる Music Ducking モード
- 13 屋内、屋外設置時に切り替えできる Indoor / Outdoor voicing モード
- 14 高精度デジタルクロスオーバーとドライバーアライメントで最適なサウンドを再生
- 15 スピーカー保護のためのスマートインプットと温度監視リミッター
- 15 軽量で耐久性に優れる成形エンクロージャー
- 16 モニター設置時に最適な角度 (45°)
- 17 35 φボールマウントカップ搭載
- 17 パウダーコートスチールグリル
- 18 重量: 8 kg
- 18 サイズ (H x W x D): 457 x 230 x 285 mm
- 19
- 20

はじめに

ラジカセのようなサイズで可搬性に優れたハイパワープロフェッショナルパワードスピーカーが欲しいと思った事はありませんか？ Thump GO はいつでもどこでも持ち運びが可能な Bluetooth® 機能搭載バッテリー駆動のパワードスピーカーです。

Bluetooth® ワイヤレスストリーミングと Thump Connect2 アプリによるワイヤレスコントロールが可能な Thump GO は真の次世代ポータブルワイヤレススピーカーです。

Mackie が設計・開発にあたり重要視したことは、場所を問わず明瞭度の高いハイパワーなプロフェッショナルサウンドを提供することでした。20 年以上にも及ぶ Mackie パワードラウドスピーカーの技術をふんだんに投入した最新のバッテリー駆動ポータブルパワードラウドスピーカー、それが Thump GO です。いつでもどこでも Thump GO と共にライブパフォーマンスを楽しみましょう！

このマニュアルの使い方

この後に続くクイックスタートガイドでは、本機を設定するための手順が説明されています。接続図は典型的な Thump GO のセットアップを解説しています。



このアイコンは特に重要、あるいは独自の情報を示す際に使われています。よく読み覚えておくことをお勧めします。この手のひらアイコンにて示される領域には特に注意を払うことをお勧めします。



より詳細な情報の場合、顕微鏡のアイコンを使っています。また実用的なヒントの説明も含んでいます。



ノートアイコンの隣に表示されるテキストにも注意を払ってください。このアイコンは、Thump GO の使用に関連する特定の機能などを説明しています。

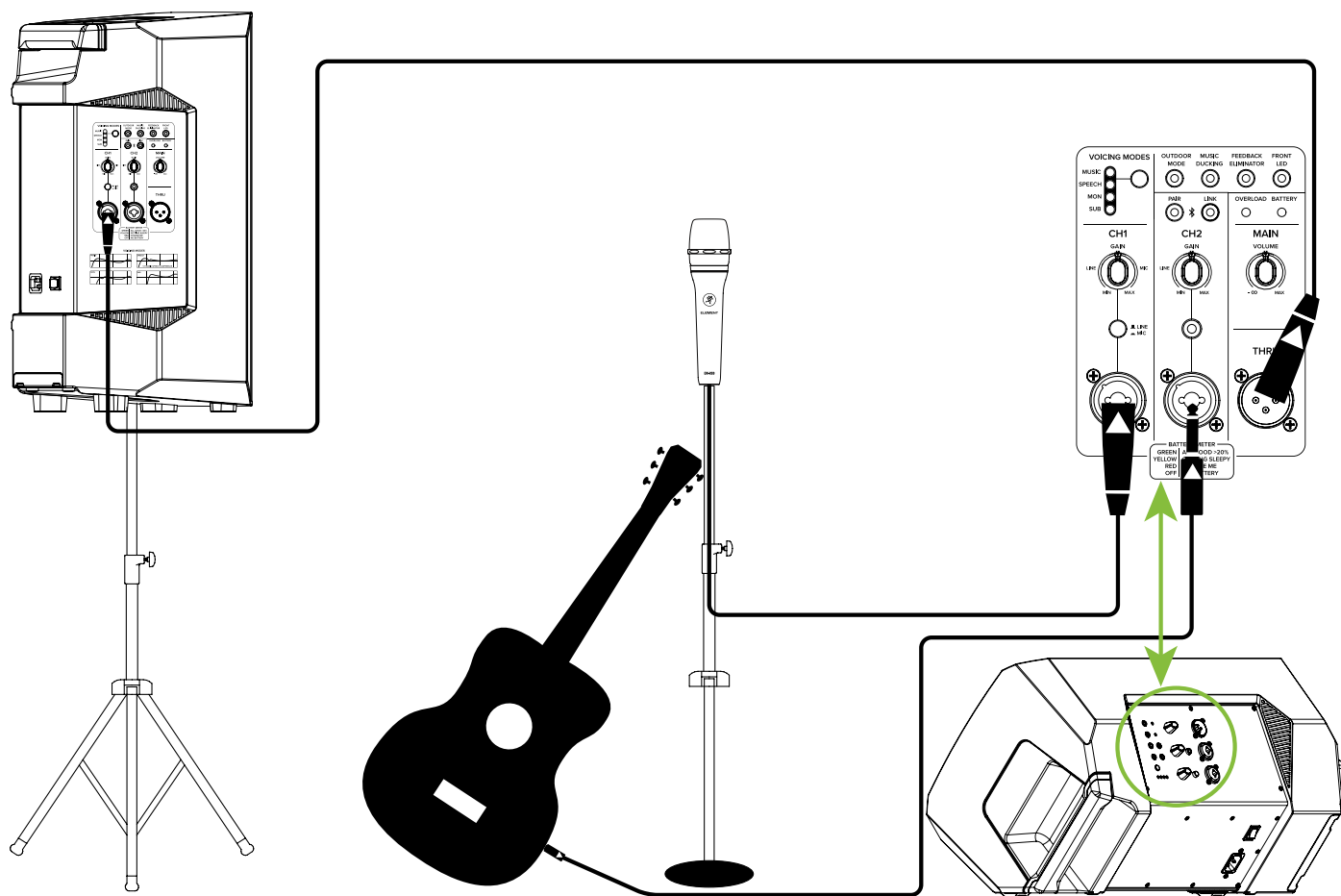
クイックスタート

以下の手順に従うことで Thump GO を素早く設定できます。

1. ケーブルを接続する際は全ての機器の電源スイッチをオフにしてください。また、マスターボリューム、レベル、またはゲインコントロールが全て下がりきっていることを確認してください。
2. サブウーファーを使用しない場合、ミキサー（もしくはその他の音源）の出力端子とスピーカーのリアパネルにある入力端子を接続してください。
3. サブウーファーを使用する際は、ミキサー（もしくはその他の音源）の出力端子とサブウーファーの入力端子を接続し、その後サブウーファーのハイパス出力端子とスピーカーの入力端子を接続してください。
4. 電源ケーブルをスピーカー / サブウーファーの電源コネクタに差し込み、もう一方の端をアース付き電源コンセントに接続してください。必ず電源ソケットの下部に表示された仕様の電源に接続してください。
5. ミキサー（もしくはその他の音源）の電源を入れます。
6. サブウーファーの電源を入れます。（サブウーファーを組み合わせで使用する場合のみ）
7. パワードスピーカーの電源を入れます。
8. スピーカーのチャンネル GAIN ノブを接続音源に合わせマイクもしくはラインの位置に設定します。
9. 接続機器のボリュームが通常使用時と同程度に設定されているか確認します。
10. 音源を再生し、音が聞こえ始めるくらいまでミキサーのメインフェーダーを上げます。

その他の注意

- 長時間、大音量で音楽を聴くと難聴の原因となる恐れがあります。P.2 の安全条項をよく読んでください。
- 一般的にミキサー（または他の音源）の電源を最初に入れ、次にサブウーファー、最後にスピーカーの電源を入れます。電源を切るときはそれとは逆にスピーカーの電源を最初に落とし、次にサブウーファー、最後にミキサーの電源を落とします。これにより突発的なノイズがスピーカーから流れることが少なくなります。
- 梱包箱と同梱物は大切に保管してください。いつか必要になる時がくるかもしれません。梱包箱がペットの遊び場になってしまっても、怒らないであげてくださいね。
- 保証書は大切に保管してください。



Thump GO は、シンガーソングライターが地元でカフェ・ライブを行うのに最適なパワードラウドスピーカーです。お気に入りのエレアコとボーカルマイク、そして Thrash と電源ケーブル、接続ケーブルを持ち込みましょう。

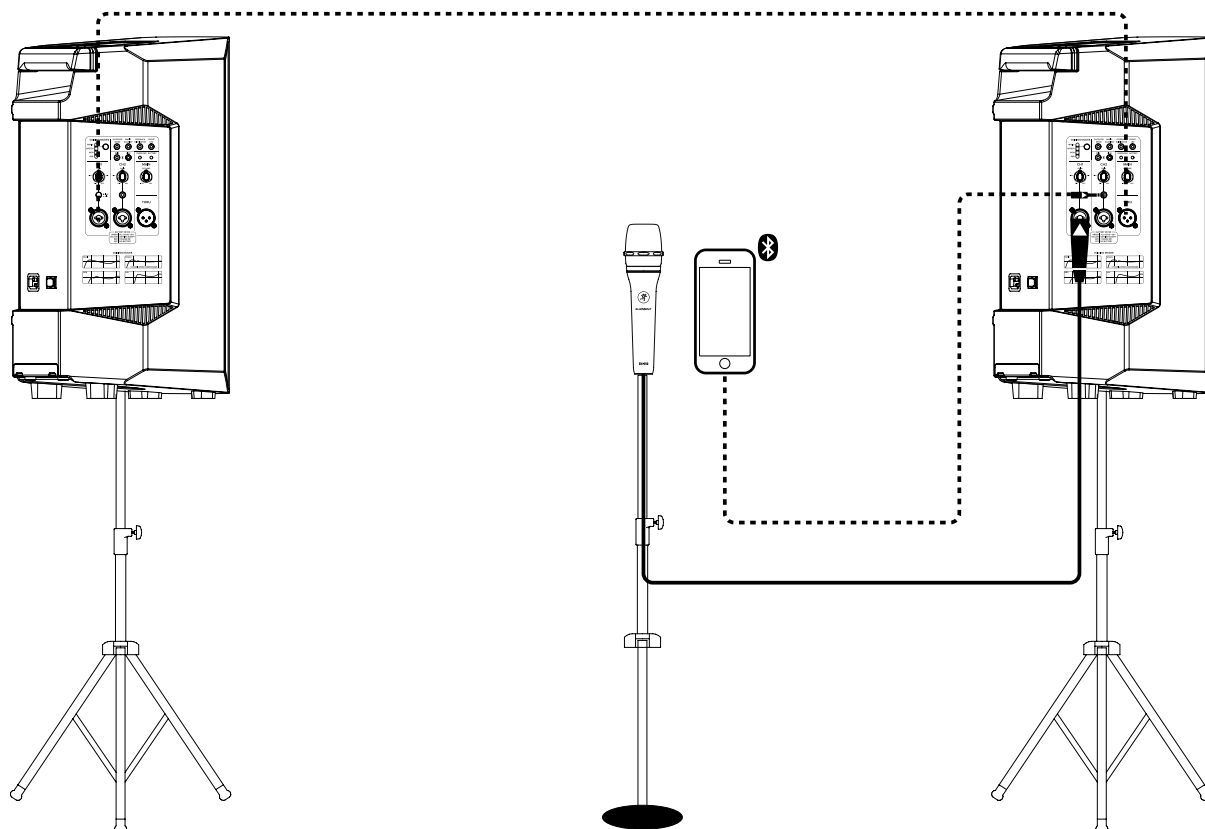
この例では、ダイナミックマイク Mackie EM-89D をモニターとして使用される Thump GO の Ch.1 の入力端子に接続しています。この時 Ch.1 の GAIN ノブは「MIC」の位置に設定し、MIC/LINE スイッチをオンにします。

エレアコを Ch.2 の入力端子へ直接接続します。エフェクターを使用する場合は、ギターをエフェクターの入力端子へ接続し、もう 1 本ケーブルを用意してエフェクターの出力端子からスピーカーの Ch.2 の入力端子へ接続します。このとき Ch.2 の GAIN ノブは「LINE」の位置へ設定してください。

もう 1 台の Thump GO ラウドスピーカーは、メイン PA として使用します。モニター用 Thump GO の THRU ジャックからメイン PA 用の Thump GO のチャンネル 1 インプットにケーブルを接続するだけです。このとき Ch.1 のゲインノブは「LINE」に設定し、MIC/LINE スイッチはオフにします。

P.12 ～ P.13 で詳しく説明しますが、「VOICING MODES」というスピーカーモードプリセットを搭載しており、用途にあわせて切り替えできます。このページで紹介しているセットアップでは、メイン PA 用の Thump GO には Music モード、モニター用の Thump GO には Monitor モードの使用をお勧めします。

接続図



Thump GO は、ハウスパーティー、バーベキュー、カラオケ大会、ピクニックにも活躍すること間違いなしです。

この例では、Mackie EM-89D ダイナミックマイクを Thump GO のチャンネル 1 の入力端子に接続しています。ゲインノブは「MIC」に設定し、MIC/LINE スイッチはオンにします。さらに、音楽再生用にスマートフォンをチャンネル 2 の 3.5 mm ステレオミニフォン入力端子に接続しています。こちらのゲインノブは「LINE」に設定します。スマートフォンのボリュームも上げておきましょう。

もう 1 台 Thump GO を使用すると、さらにパンチが効きますのでぜひお試しください。1 台目の Thump GO の THRU ジャックから、もう 1 台の Thump GO のチャンネル 1 入力にケーブルを接続するだけです。この入力のゲインノブは「LINE」に設定し、MIC/LINE スイッチはオフにします。

P.12 ~ P.13 で詳しく説明しますが、「VOICING MODES」というスピーカーモードプリセットを搭載しており、用途にあわせて切り替えることができます。このページで紹介しているセットアップでは、2 台とも Music モードで使用することを推奨します。

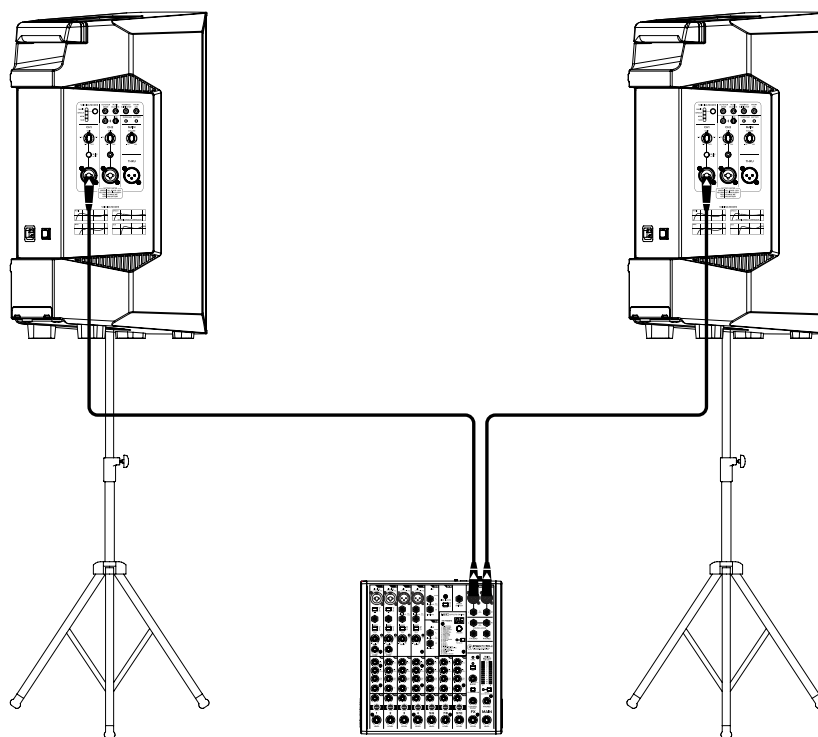
さて、ここからはご提案になります。ケーブルについてです。いいですか？ケーブルが誤って外れたり断線したりすると、けがをしたり、最悪の場合、死亡する可能性もあります。誰かひとり足をひっかけてつまずくと・・・とヒヤリとした経験はありませんか。そこで Mackie からの解決策をお教えします！

まず、ダイナミックマイクに Mackie EM Wave XLR の送信機を、1 本目の Thump GO のチャンネル 1 の入力端子に EM Wave XLR の受信機を取り付けてワイヤレスマイクにしてみましょう。お手持ちのマイクを簡単にワイヤレス化することができます。次にスマートフォンを Bluetooth で接続します。Thump GO は Bluetooth でワイヤレスコントロールすることができます。これでケーブルがまた 1 本なくなりました。ワイヤレスコントロールを行うにはスマートフォン用アプリ Thump Connect 2 App が必要です。詳細は P.14 をご参照ください。

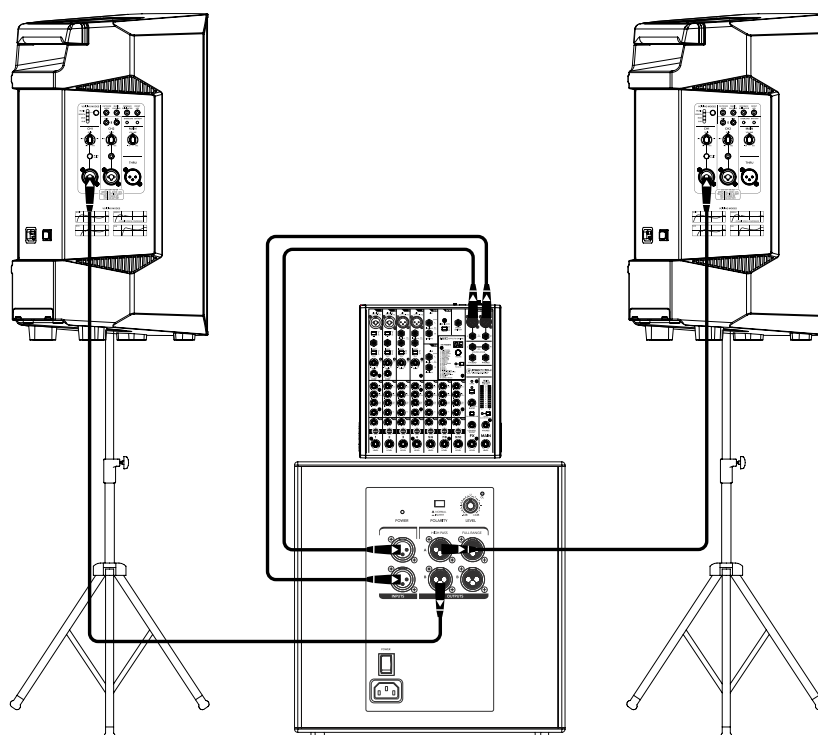
最後のケーブルは、1 台目の Thump GO の THRU 端子から 2 台目の Thump GO の Ch.1 入力端子に接続されています。この 2 台のスピーカーを Bluetooth でワイヤレスリンクさせれば、3 本目のケーブルは不要となります。こちらもスマートフォン用アプリの Thump Connect 2 App から設定できます。スピーカーのバッテリーが充電されていれば、電源ケーブルすらも必要なく、完全ワイヤレスな PA システムが完成します！（※注意：ワイヤレスリンクの場合、マイクの音声は EM Wave XLR の受信機を取り付けた 1 本目の Thump GO のみから再生されます。Bluetooth 音源は両方の Thump GO から再生されます）

Thump GO のすごいところはこれだけじゃない、まだあるんです。非常に使い勝手のよい 3 つの機能をご紹介します。OUTDOOR MODE ボタンを押せば、屋外での使用に最適なサウンドを再生できます。レベルは Thump Connect 2 App で簡単に上げ下げすることができます。MUSIC DUCKING ボタンは Ch.1 に接続したマイクを優先し、Ch.2 に接続した音源の音量を自動的に下げることができるボタンです。イベントで音楽を大音量で再生しているときに、迷子のお知らせの緊急放送ができます。ただしカラオケ大会では使用しないでくださいね。気持ちよく大声で歌い始めたら音楽が小さく再生されてしまいます。また FEEDBACK ELIMINATOR ボタンで、急激なハウリングを自動的に回避できます。こちらは常にオンにしておくといでしょう。それぞれの詳細は P.13 をご参照ください。

House Parties / BBQ / Karaoke / Picnic System

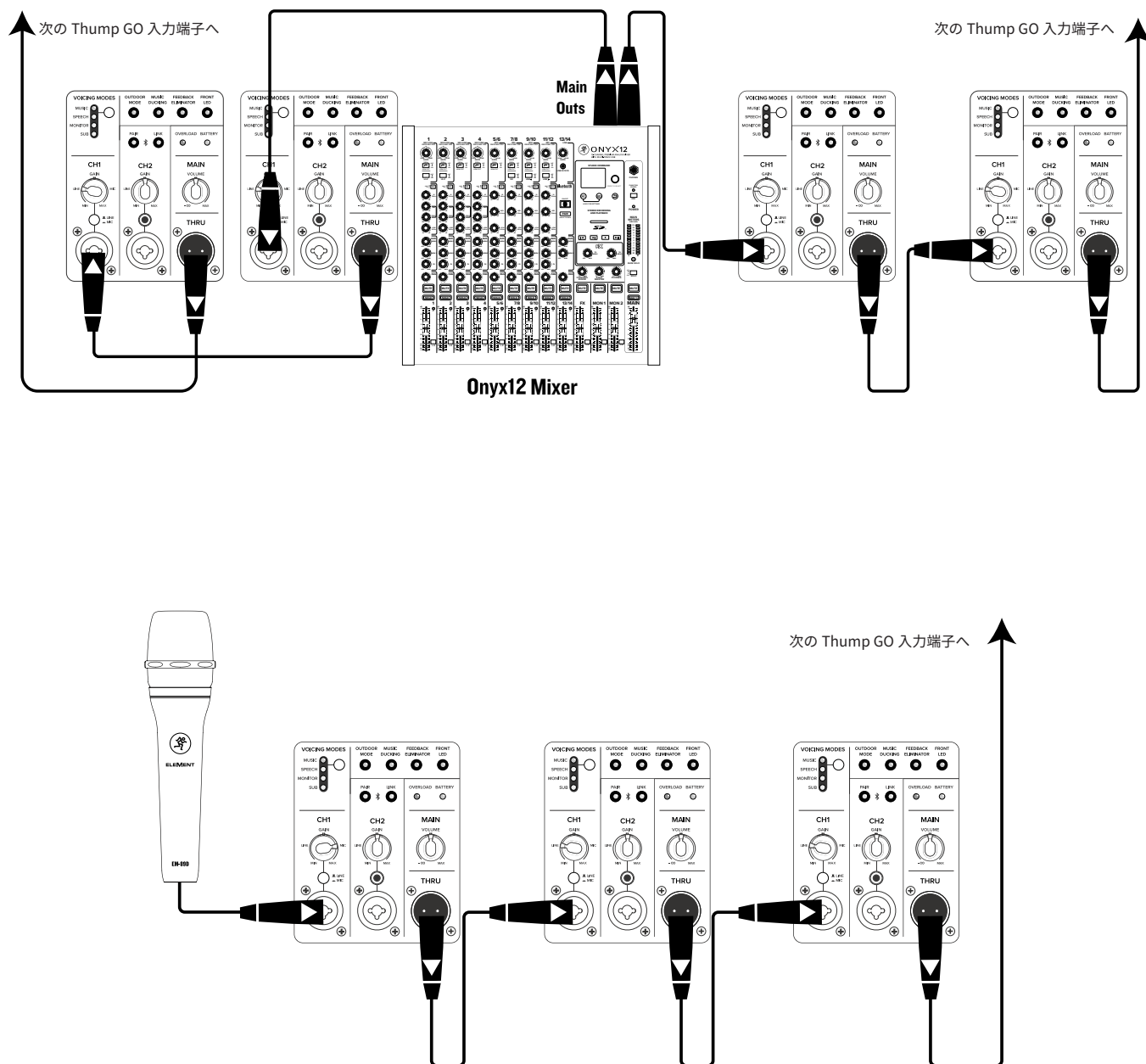


この例では、ProFX10v3 が 2 つの Thump GO と接続されています。小さなクラブには申し分のないセットアップです。ここでは、Mackie ProFX10v3 の L/R 出力が直接両サイドの Thump GO の Ch.1 入力端子に接続されています。両方のスピーカーの Ch.1 のゲインを「LINE」の位置に設定し、MIC/LINE スイッチはオフにします。ボイシングモードの設定もお忘れなく。こちらのセットアップでは Music モードが最適です。



低音がもう少し欲しい場合、サブウーファー Thump 18S をセットアップに追加しても良いですね。ここでは、ProFX10v3 の L/R 出力が直接 Thump 18S の Ch.A、Ch.B の入力端子に接続されています。そしてサブウーファーのハイパス出力端子から、両方の Thump GO の Ch.1 入力端子に接続しています。スピーカー両方の Ch.1 のゲインを「LINE」の位置に設定し、MIC/LINE スイッチはオフにします。この場合もボイシングモードは Music がいいでしょう。

接続図



Thump GO は THRU と印字された XLR オス端子を介してデジチェーン接続を行うことができます。音源（ミキサーの出力もしくはマイク）を入力端子に接続し、Thump GO の THRU 端子を次の Thump GO の入力端子に接続します。これを繰り返して、複数台のスピーカーをデジチェーン接続します。上の接続図をご参照ください。

注意：スピーカーのゲインノブの位置が正しいか確認してください。ミキサーなどラインレベルの音源を利用してデジチェーン接続を行う場合（上部の接続図を参照）、すべての入力チャンネルのゲインノブは「LINE」の位置に設定し、MIC/LINE スイッチはオフにします。マイクレベルの音源を使用してデジチェーン接続を行う場合（下側の接続図を参照）は、マイクを接続した1本目の Thump GO のゲインノブは「MIC」の位置に設定し、MIC/LINE スイッチはオン、2本目以降の Thump GO のゲインノブは「LINE」の位置に設定し、MIC/LINE スイッチはオフにします。ゲインノブの「MIC」と「LINE」マークはあくまで参考値であり、必要に応じて適宜調整してください。

Daisy-Chaining Multiple Thump GO Loudspeakers

リアパネルの機能

Thump Connect 2 アプリ

Thump GO は、Thump Connect 2 アプリと連動して使用するように設計されています。このアプリがあれば、これからご紹介するスピーカー本体の様々な機能、またはそれ以上のことを、お手持ちのスマートフォンから Bluetooth 経由で操作することができます。Thump Connect 2 アプリでできないことは、Thump GO 本体の電源オン / オフだけです。

Thump Connect 2 アプリの詳細については、Thump Connect 2 アプリのリファレンスガイドをご参照ください。Thump Connect 2 アプリマニュアル（英語）は Mackie ホームページよりダウンロードしてください。

1. 電源コネクター

これは IEC に準拠した標準的な 3 ピンタイプの電源コネクターです。取り外し可能なラインコード（製品に同梱）を電源部分のレセプタクルに接続し、もう一方の端を電源コンセントに接続します。



必ず電源ソケットの下部に表示された仕様の電源に接続してください。



グラウンドピンを接続しないのは大変危険です。お止めください。

2. 電源スイッチ

このスイッチの上部を押し込むとスピーカーの電源がオンになります。またこのスイッチを左側に押すとスピーカーの電源がオフになります。



一般的にミキサー（または他の音源）の電源を最初に入れ、次にサブウーファー、最後にスピーカーの電源を入れます。電源を切るときはそれとは逆にスピーカーの電源を最初に落とし、次にサブウーファー、最後にミキサーの電源を落とします。これにより突発的なノイズがスピーカーから流れることが少なくなります。

3. XLR & TRS フォンコンボ入力端子 [Ch.1 & Ch.2]

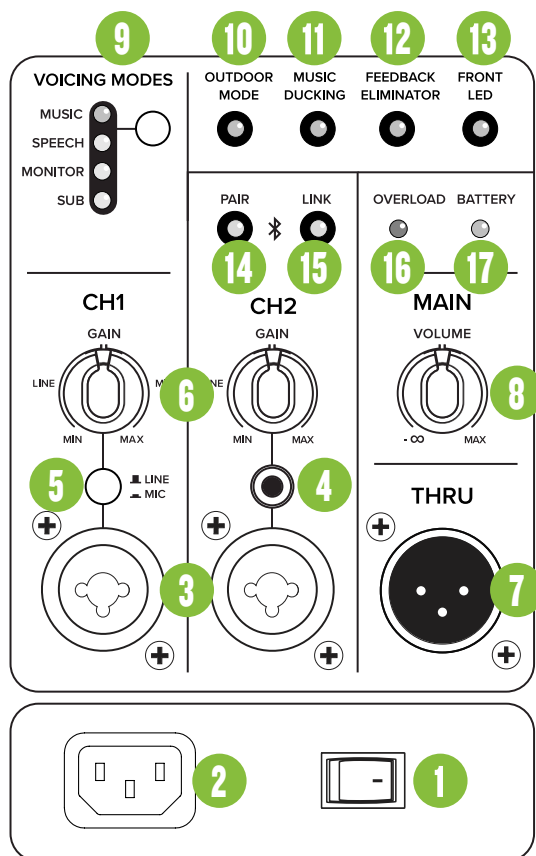
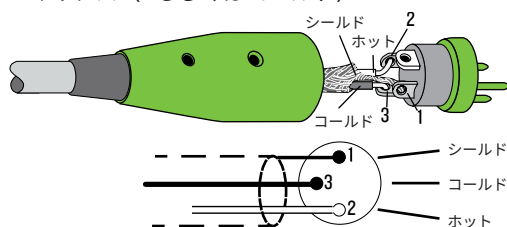
Ch.1 と Ch.2 の入力にはバランス XLR 端子を使用することができます。これは AES（Audio Engineering Society）が定めたものです。マイクを使用する場合は必ず XLR3 ピンケーブルで Ch.1 に接続してください。両チャンネルともラインレベル入力に対応していますが、マイクは Ch.1 のみ対応しています。AES（Audio Engineering Society）の規格に基づき、以下のように配線されています。

XLR バランス配線

Pin 1 = シールド（グラウンド）

Pin 2 = プラス（+ もしくはホット）

Pin 3 = マイナス（- もしくはコールド）



この端子は XLR 端子に加え、1/4 インチ TRS フォンのバランスもしくはアンバランス信号にも対応するコンボ端子です。

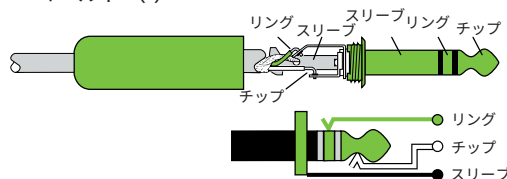
ラインレベルのバランス信号をこれらのチャンネルに入力する場合は、TRS フォンをご利用ください。TRS はチップ - リング - スリーブの略で、ステレオ 1/4 インチのプラグの 3 つの接点を表しています。ケーブルは下図のように配線してください。

1/4 インチ TRS バランスモノラル配線

スリーブ = シールドまたはグラウンド

チップ = ホット (+)

リング = コールド (-)

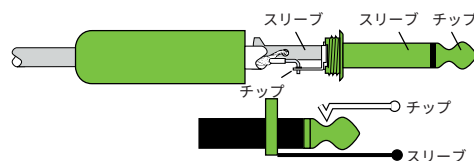


アンバランスのライン信号を入力端子に接続する場合は、1/4 インチモノラルフォン (TS) を使用します。配線は以下の通りです。

1/4 インチ TS アンバランスモノラル配線

スリーブ = シールド

チップ = ホット (+)



決してアンプからの出力を Thump GO の入力端子に接続しないでください。入力回路の破損の原因となる場合があります。

リアパネルの機能

4. 3.5mm ステレオミニフォン入力端子 (Ch.2)

スマートフォンやタブレット、MP3 プレーヤーなどから音源を入力できる 3.5mm ステレオミニフォン入力端子です。



決してパワーアンプからの出力を Thump GO の入力端子に接続しないでください。入力回路の破損の原因となる場合があります。



この 3.5 mm ステレオミニフォン入力端子は、Ch.2 のコンボ端子 (XLR またはフォン) および Bluetooth 接続と同時に使用することができます。つまり、3.5mm ステレオミニフォン入力端子に有線接続され、コンボ端子にもケーブルを接続している状態で、さらに Bluetooth で接続することもできるというわけです。もちろんいずれの入力も遮断しません。もっと簡単に言うと、入力が増えたということです。3.5mm ステレオミニフォンのラインレベル接続と XLR (またはフォン) 接続はミックスされ出力されます。

5. MIC/LINE スイッチ (Ch.1)

Thump GO の Ch.1 入力、XLR & バランスフォンコンボ入力端子です。マイクまたはそのオーディオ機器 (楽器も含む) を接続できますが、接続する音源によって入力感度の調整が必要です。このスイッチで Ch.1 の入力をマイクレベルまたはラインレベルの音源に最適化します。マイクを接続する場合は、このスイッチを押し、GAIN ノブを MIC の位置に設定してください。ラインレベルの音源を Ch.1 に接続する場合 (XLR 経由) は、このスイッチをオフにし、GAIN ノブを LINE の位置に設定してください。GAIN ノブについては次の項目をご参照ください。

6. GAIN ノブ (Ch.1 & Ch.2)

まだお読みでない方は、P.6 の「クイックスタート」の項をご一読ください。プリアンプのゲインが高すぎて歪みが生じたり、または低すぎて静かで繊細な音がノイズに埋もれてしまったりしないように、ゲインを正しく設定してください。

GAIN ノブは、OVERLOAD LED (P.15) と連動して、マイク入力 (Ch.1 のみ) とライン入力の感度を調整します。これにより外部から入力される信号を、適切な入力レベルに調整することができます。Ch.1 の XLR 端子に接続したマイク入力の場合、ノブを下げるとオフ (0 dB)、ノブを上げると最大ゲイン (+40 dB) となります。12 時の位置がユニティゲインです。

TRS 端子に接続したライン入力の場合、ノブを下げると -20 dB、ノブを上げると最大ゲイン (+20 dB) となります。12 時の位置がユニティゲインです。

ミキサーの出力を Thump GO の入力に接続する場合、ノブを 9 時の位置 (「LINE」の位置) に設定することで最適なサウンドとパフォーマンスを得ることができます。

GAIN ノブの「MIC」と「LINE」マークはあくまで参考値であり、必要に応じて適宜調整してください。

7. THRU 端子

XLR オスのバランス出力端子で、すべての入力端子に接続した音源をサミングモノミックスしたモノラル信号を出力します。メインボリュームに影響されません。1 本目の Thump GO に接続した音源を 2 本目の Thump GO から出力したい場合や、サブウーファアを接続する場合に使用します。

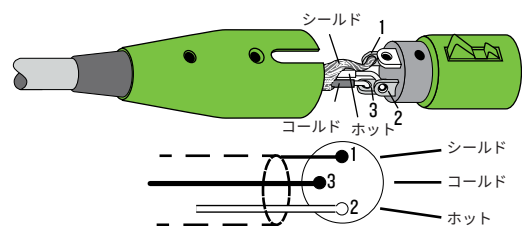
AES (Audio Engineering Society) の規格に基づき、以下のように配線されています。

バランス XLR 出力端子

Pin 1 = シールド (グラウンド)

Pin 2 = プラス (+ もしくはホット)

Pin 3 = マイナス (- もしくはコールド)



8. MAIN VOLUME ノブ

このノブで内蔵パワーアンプへ送られる全体的な入力信号レベルを調整します。ノブを下げるとオフ (-)、上げると最大ゲイン (+6 dB) になります。12 時の位置がユニティゲインです。

- MAIN ノブがセンターの位置になっているとき、+4 dBu のライン信号で動作するように設計されています。
- ライン入力ゲインを適宜下げることによって、+20 dBu までのライン信号を受けることができます (Ch.1 の MIC/LINE スイッチがオフで、ゲインノブが LINE に設定されている場合)。OVERLOAD LED が点灯した場合は、警告が消えるまで入力ゲインをゆっくりと下げてください。
- Ch.1 の MIC/LINE スイッチが MIC に設定されている場合、Ch.1 の GAIN ノブを上げると、XLR 端子に接続したマイクに十分なゲインが得られます。まずはメインノブをセンターポジションに設定します。それから Ch.1 のマイクゲインを上げてみてください。

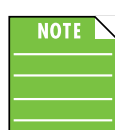
9. VOICING MODES

Thump GO に搭載されたボイシングモードでは、「MUSIC」や「SPEECH」など状況にあわせた最適なサウンドチューニングを選択できます。VOICING MODES ボタンを押すごとにモードが切り替わります。希望のモードに LED が点灯するように設定してください。

次のページにて、6 つのボイシングモードをご紹介します。(※最後の 2 つは現時点で非搭載・将来対応?)

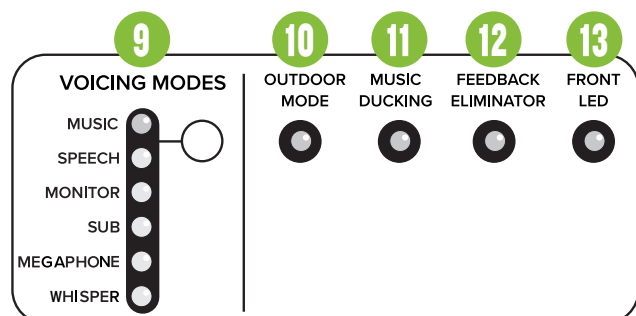
リアパネルの機能

- **MUSIC** - フルレンジでありながら、低域を拡張し、高域をクリアにしたモードです。DJ や音楽再生に最適です。
- **SPEECH** - このモードでは、スピーチの明瞭度を上げるため、無駄な低域をカットし、スピーチの帯域である高音域をブースト、またハウリングがよく発生する周波数帯の一部をカットしています。さらに専用のコンプレッサーが作動し、スピーチから発生する耳障りな高い音「サシスセソ」などの歯擦音を自動でコントロールします。これらの機能で声の帯域、スピーチをはっきりとわかりやすく再生します。
- **MONITOR** - モニターモードはステージ上での音の回り込みを回避すべく無駄な帯域の出力を抑え、中域マスキングも回避できるよう調整されています。



このモードは、スピーカーがステージ上のサイドフィルやフロアモニターとして設置している場合、効果を発揮します。それ以外の用途でこのモードを使用すると低域が全くない、迫力の無いサウンドになりますのでご注意ください。

- **SUB** - このモードでは、サブウーファーに低域再生を任せるチューニングを施します。Thump GO の負荷が軽減され、Thump GO は約+3 dB の追加出力を得られます。サブウーファーのハイパスアウトを使用せず、このモードは Thump GO からサブウーファーに送る信号を最適化するため、サブウーファーと組み合わせて使用する場合、「MUSIC」モードの代わりにこのモードを使用するとよいでしょう。この場合、ミキサーからの出力を Thump GO に接続し、Thump GO の THRU 端子からサブウーファーの入力端子に接続してください。
- **MEGAPHONE** (※ 2022 年現在非搭載モード) - メガホンを使いますか？メガホンを使えば声が大きくなりますよ。スピーチやプレゼンテーションで声の小さい人がいる場合はメガホンを使ってみてはいかがでしょうか？ 100 均で購入できますよ！
- **WHISPER** (※ 2022 年現在非搭載モード) - このモードでは、全体の出力が自動的に減少します。あまりいないかもしれませんが、声が大きすぎる人が、スピーチやプレゼンテーションを行う場合に選択するとよいでしょう。また聴きたくもないような愚痴を言い出したらこのモードを選択するとよいでしょう。



10. OUTDOOR MODE ボタン

自宅や倉庫内でチューニングしたスピーカーをいざ屋外で使おうとしたとき、あれ？音が違う・・・と残念な結果になったことはありませんか？この OUTDOOR MODE を選べばそんな心配は不要です。屋外での使用に最適なサウンドを再生できます。

スピーカーを屋外に設置した場合、屋内に設置した時とは異なり、壁などからの音の反射が無く少し物足りない感覚になると思います。OUTDOOR MODE では、足りない周波数帯域をブーストすることで補正し、屋外でも屋内と同じようにスピーカーを鳴らすことができます。あなたはこのボタンを押すだけです。あとは私たち Mackie がうまくやります。

OUTDOOR MODE がオンになっていると、LED が緑色に点灯します。

11. MUSIC DUCKING ボタン

音楽が流れているイベントで誰かがマイクに向かって話すと、流れている音楽の音量だけがぐっと小さくなることがありますね。それを「ミュージック・ダッキング」と言います。

MUSIC DUCKING をオンにすると、Ch.1 にマイク信号が入った場合、Ch.2 のレベルが自動的に下がります。MUSIC DUCKING がオンになっていると、LED が緑色に点灯します。マイクからの音声信号がなくなると、まるで魔法にかかったかのように、音楽は元のレベルに戻ります。Mackie のエンジニアたちはこの Thump GO に魔法を仕込んだようです。だれも魔法の杖を持っているわけじゃないんですが。



オーディオマニアが喜びそうな情報ですが、MUSIC DUCKING がオンになっているときは、Ch.1 にマイク信号が入った際、Ch.2 のレベルが 15 dB 減少します。

12. FEEDBACK ELIMINATOR ボタン

マルチバンドのフィードバック・エリミネーター (FEEDBACK ELIMINATOR) は、ハウリングを発生させている周波数帯域を瞬時に検出し、最大 6 ポイントのノッチフィルターを自動的に適用してハウリングを回避し、ハウリング前の音量まで復帰させます。PA エンジニアが不在の場合に有効なツールです。

- **Off [デフォルト]** - フィードバック・エリミネーターは作動していない状態です。フィードバックエリミネーターで一度自動感知し設定されたフィルターのデータは保存されていますが、このボタンをオンに戻すまでフィルターは作動しません。
- **On** - フィードバックエリミネーターがオンになると、スキャンが連続して自動的に行われます。ハウリングが存在すると、6 ポイントのフィルターが順次作動し、6 ポイントすべて使用された後、ロックされます。既存のフィルターでハウリングが感知されると、ノッチが 3 段階で深くなり、ハウリングがさらに回避されます。かなりクールでしょう！作動中は LED が緑色に点灯します。

リアパネルの機能



フィードバックエリミネーターは、Ch.1（マイクおよびラインモード）にのみ作用します。



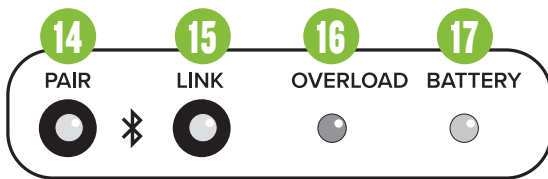
2台の Thump GO ラウドスピーカーをステレオモードで接続した場合、フィードバックエリミネーターはプライマリーの Thump GO にのみ作動させてください。

13. FRONT LED

Thump GO のフロントパネル下部付近に横長の LED バーが1つあります。この前面にある LED はフロント LED スイッチが入っているときに緑色に点灯します。また、このスイッチ LED も緑色に点灯します。フロントパネルの LED を点灯させたくない場合は、このスイッチをオフにしてください。私たちはこれを「ステルス」モードと呼んでいます。



Thump GO の電源がオフで、電源ケーブルを接続したままの状態では、この LED はバッテリー充電のインジケータとして機能します。充電中は緑色にゆっくりと点滅します。完全に充電されると、LED は緑色に点灯したままになります（点滅なし）。



14. Bluetooth / PAIR ボタン

ステレオ Ch.3/4 は Bluetooth を経由して入力されるチャンネルです。音量の調整は Thump Connect 2 アプリをダウンロードしてあるデバイス上でのみ行うことができます。物理的なボリュームノブはありません。

ではこれからお手持ちのデバイスと Thump GO を Bluetooth で接続する方法を紹介します。

Thump GO の電源を ON にすると、Bluetooth は下記のどちらかの状態になります。

(1) スリープモード → 「初めてペアリングするデバイスの場合」をご参照ください。

(2) ペアリング完了 → 「以前にペアリングしたことがあるデバイスの場合」をご参照ください。

初めてペアリングするデバイスの場合

PAIR ボタンを3秒以上押し続けることで、本体がペアリングモードになります。ペアリングモードになると、LED が約30秒間ゆっくりと青く点滅します。ペアリング接続に成功するまで LED の点滅は続きます。

Thump GO がペアリングモードになっている間に、お使いのデバイスの設定から Bluetooth の項目を選択し、有効なデバイスをスキャンしてください。Thump GO が「その他のデバイス」「利用可能なデバイス」のリストに表示されるはずですが、表示されたら Thump GO をタップして選択してください。お使いのデバイスの画面で接続済のステータスになったらペアリング完了です。ペアリングが完了すると Thump GO の PAIR ボタン LED が点滅から点灯に切り替わります。切り替わらない場合は、もう一度ペアリングをやり直してみてください。再度ペアリングを行う場合は Thump GO とお使いのデバイスが同時にペアリングモードになっていることを確認してください。

以前にペアリングしたことがあるデバイスの場合

Thump GO とデバイスの距離が離れていたり、壁などの障害物に遮られていたり、Thump GO 本体の電源が切れたりすると、Bluetooth ペアリングは切断されます。以前ペアリングしたことのあるデバイスは、(Thump Connect 2 アプリでオフにしない限り) Thump GO の電源が起動し近くにある場合、自動的に認識されペアリングされます。ペアリング接続が成功すると Thump GO の PAIR ボタン LED はふたたび青色に点灯します。



Thump GO とのペアリングを解除するには、本体の PAIR ボタンを3秒以上長押ししてください。



静電気による放電や、電子レンジなどの電磁波を発生する機器などの起動、AC 電源を差し込んだり、機器の電源を切ったりするときに生じる電気アークの影響を受けると、Bluetooth 接続が切断される場合があります。このときは手動で Bluetooth ペアリングを再度行ってください。



前述のとおり、Bluetooth 接続は、XLR & バランスフォンコンボ入力端子 (Ch.1 & Ch.2) と 3.5 mm ステレオミニフォン入力端子 (Ch.2) と同時に使用することができます。例えば、Ch.1 のコンボ端子にマイクを接続し、Ch.2 の 3.5 mm ステレオミニフォン入力にもミュージックプレーヤーなどを接続していて、スピーカー本体の入力チャンネルがすべて埋まっている状態でも、Bluetooth 経由でステレオチャンネル 3/4 を再生できます。これらの入力はどれも同時に使用することができます。便利だと思いませんか？



1台のスマートフォン、もしくは2台の別々のスマートフォンが2台の Thump GO と Bluetooth でペアリングされている場合、スピーカーリンクすることができない場合があります (スピーカーリンクについては次のページをご参照ください。)

(1) 2台の Thump GO のうち、1台がスマートフォンと Bluetooth でペアリングされていて、もう1台はスマートフォンと Bluetooth ペアリングされていない場合、2台の Thump GO をスピーカーリンクすることができます。

(2) 2台の Thump GO のうち、2台ともスマートフォンと Bluetooth でペアリングされている場合、2台の Thump GO をスピーカーリンクすることはできません。

リアパネルの機能

15. LINK ボタン

2 台の Thump GO がある場合、ケーブルで接続するのではなく、Bluetooth 経由でリンクして使用することができます。Bluetooth でリンクした場合、L/R のステレオスピーカーとして、またはそれぞれ個別のスピーカーとして認識させるゾーン（デュアルモノ）リンクの選択が可能です。ただし、このモードの切り替えは Thump Connect 2 アプリで接続した場合のみ利用できます。スピーカー本体だけでリンクしているときはデフォルトで L/R ステレオモードになります。

リンクする

2 台の Thump GO をリンクさせるには、スマートフォンとペアリング済みの 1 台目の Thump GO の LINK ボタンを、LED が青くゆっくり点滅し始めるまで長押しします。

1 台目の Thump GO の LINK ボタンが点滅し始めてから約 30 秒以内に、スマートフォンとペアリングしていない 2 台目の Thump GO の LINK ボタンを押してください（長押しする必要はありません）。これにより Bluetooth 経由でそれぞれのスピーカーがお互いを認識しリンクします。両方のスピーカーの LINK ボタンが点滅から点灯に変わったら、リンクは成功です。



一度リンクした 2 台の ThumpGO は Thump Connect 2 アプリで AUTO-LINK をオフにしない限り、電源投入のたびに自動的にリンクし続けます。

リンクを解除する

2 台の Thump GO のリンクを解除するには、片方の Thump GO の LINK ボタンを LED が消えるまで押し続けます。もう一方の Thump GO は自動的にリンクが解除され、LINK ボタンが消灯します。これでリンクは解除されました。



1 台のスマートフォン、もしくは 2 台の別々のスマートフォンが 2 台の Thump GO と Bluetooth でペアリングされている場合、スピーカーリンクすることができない場合があります。

(1) 2 台の Thump GO のうち、1 台がスマートフォンと Bluetooth でペアリングされていて、もう 1 台はスマートフォンと Bluetooth ペアリングされていない場合、2 台の Thump GO をスピーカーリンクすることができます。

(2) 2 台の Thump GO のうち、2 台ともスマートフォンと Bluetooth でペアリングされている場合、2 台の Thump GO をスピーカーリンクすることはできません。

16. OVERLOAD LED

Thump GO にはリミッターが内蔵されています。アンプ出力がクリップしたり、トランスデューサーをオーバードライブさせないようにするためものです。リミッターが作動すると、インジケータ LED が赤く点灯します。この LED がときどき点滅する程度であれば問題ありませんが、頻繁に点滅したり点灯し続けたりする場合は、ゲインノブを下げても点滅が少なくなるようにしてください。



リミッターが常にかかり続けると、過熱を招き、熱保護回路が作動してパフォーマンスが中断されることがあります。詳しくは P.17 の「熱保護」の項目をご参照ください。

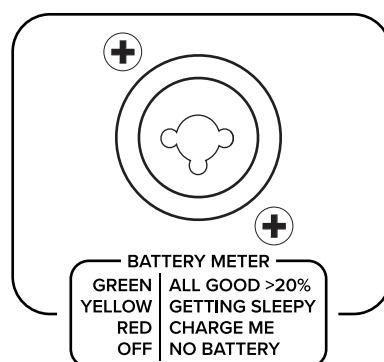
17. BATTERY LED

バッテリーの残量を 3 色の LED で表示します。バッテリー残量と LED カラーの内容は下記のとおりです。また、リアパネルの Ch.2 コンボ端子のすぐ下にシルクスクリーンでも表示していますので、ご確認ください。

- 緑色 = バッテリー残量 20 ~ 100%
- 黄 = バッテリー残量 5% ~ 20% 未満
- 赤 = バッテリー残量 5% 未満
- LED 消灯 = バッテリー残量なし



バッテリー残量は Thump Connect 2 アプリで確認することもできますが、Thump GO 本体のリアパネルにあるバッテリー LED をご確認ください方法がより確実です。



最後に

Thump GO は本体のみでも素晴らしいパフォーマンスを発揮しますが、より可能性を広げるためにはデバイスをペアリングし、ぜひ Thump Connect 2 アプリと組み合わせて使用してください。

工場出荷時の製品状態に戻す

工場出荷時のリセットについて説明します。Thump Connect 2 アプリでスピーカーの設定を変更することができますが、工場出荷時の設定に戻したい場合は下記の方法で実施してください。

リセットには 2 パターンあります。

- **ソフトリセット** - 本体の電源スイッチを切つてすぐに入れなおすと、リアパネルやアプリで設定したすべての設定が初期設定に戻ります（Thump GO 内に保存されている Bluetooth ペアリングデバイスの情報とリンクされたスピーカーの情報はリセットされません）。
- **ハードリセット** - Bluetooth ペアリングデバイスの情報とリンクされたスピーカーの情報を含め、製品全体を工場出荷時の状態にリセットします。「VOICING MODES」と「OUTDOOR MODE」ボタンを同時に押しながら電源を起動し、電源起動後もこの 2 つのボタンを約 5 秒間長押しすることで、すべての設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。



レベルや EQ などの設定も含めて、すべての設定が消去されますのでご注意ください。また Thump GO をリセットする前に、ThumpGO と接続しているアンプやパワードスピーカーの電源を必ず切ってください。



ハードリセットすると、以前にペアリングしたデバイスの Thump GO のメモリが消去されます。この問題を解決するには、お使いのスマートフォン、タブレット、その他の Bluetooth デバイス上から、Bluetooth 設定を開いて「デバイス削除」を選択し Thump GO を削除してください。その後、ハードリセット後の Thump GO 再度ペアリングしてください。

バッテリー交換

脱着可能なりチウムイオンバッテリーが内蔵されています。また Thump GO 専用予備バッテリーも別売しています。



安全第一：本製品を設置、使用する前に、この項目をよくお読みください。注意事項に従わない場合、損傷、けが、死亡の原因になることがあります。

1. **警告：**電池（バッテリーまたはバッテリーパック）は、日光や火気などの過度な熱にさらさないでください。

2. **注意：**純正品でない電池（バッテリーまたはバッテリーパック）を使用すると、爆発する危険があります。必ず純正品の電池と交換してください。

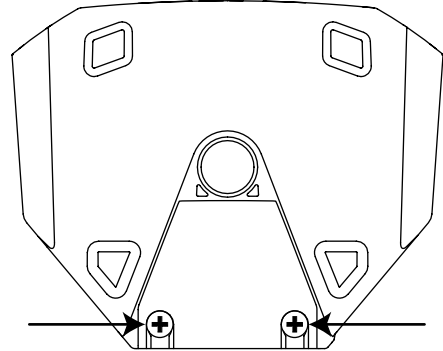
3. 火のついたロウソクや裸火をスピーカー本体のうえに絶対置かないでください。

警告：本製品を設置する際は、必ず安全規格を遵守してください。この説明書に記載されていない方法で製品を取り付けしないでください。

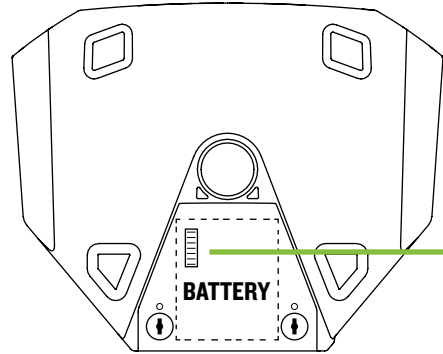
バッテリー / カバー着脱方法

Thump GO の電源ケーブルを外し、本体を逆さまにして平らで柔らかい場所に置いてください。

ドライバーを使用して、2 つのロックタブを反時計回りに回してバッテリーの蓋を外します。蓋が外れたら横に置いておきます。



着脱式バッテリーは下図の点線で囲んだ箇所にあります。



バッテリーの両側、図の「BATTERY」の文字がある付近には、左右に手で取り出しやすいようすべり止めがついています。このすべり止めをつかんでバッテリーをまっすぐ上に持ち上げて取り外します。

バッテリー取り付け方法

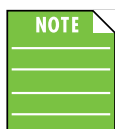
バッテリーカバーとバッテリーを取り外して脇に置いたら、今度は別のバッテリーを挿入します。



注意：バッテリーを取り付ける際は、無理に押し込んだりしないようご注意ください。なにか引っかかったりすることなくスムーズに入れば取り付け成功です。

バッテリーを取り外した左上には縦長の電源コネクタが配置されています。上の図をご参照ください。バッテリーの電源端子を Thump GO の電源端子に合わせ、押し込んでください。

カバーを元に戻し、2 つのロックタブを時計回りに回してバッテリーを固定します。



使用しないときはバッテリーを取り外し、汎用の電源アダプターでスペアバッテリー（別売）を充電することができます。バッテリーは Thump GO に装着した状態でも充電することもできます。

Thump Connect 2 アプリ

Thump Connect2 アプリについて、本マニュアルの冒頭でも紹介しましたが、重要なことですので再度こちらでも繰り返します。

Thump GO は、Thump Connect 2 アプリと連動して使用するよう設計されています。このアプリがあれば、ここで紹介するスピーカー本体のさまざまな機能をお手持ちのスマートフォンから Bluetooth 経由で操作できます。Thump Connect 2 アプリでできないことは、Thump GO 本体の電源オン / オフだけです。

Thump Connect 2 アプリの詳細については、Thump Connect 2 アプリのリファレンスガイドをご参照ください。Thump Connect 2 アプリマニュアル（英語）は Mackie ホームページよりダウンロードしてください。

保護回路

Thump GO は、ピークレベルにおいて歪みを少なくするためのリミッターを内蔵しています。ダイナミックな低域レスポンス回路は全体の出力レベルに関わらず、最適な低周波レスポンスを実現します。また自動サーマルシャットダウン機能も内蔵しており、アンプのオーバーヒートを防ぐことができます。クラス D のアンプ技術を搭載しており非常に熱効率がよいため、機能することは少ないでしょう。



保護回路はある一定の状況下において、スピーカーを保護するよう設計されています。もし警告サイン（過大な歪みなど）を無視することを選択した場合、アンプがクリップし始めるポイントを過ぎてオーバードライブを続け、ウーファーにダメージを与えることとなります。このようなダメージは保証対象外となりますのでご注意ください。

リミッター

ポリマー製コンプレッションドライバーについて説明します。他のドライバーと比較すると、高域のレスポンスが非常に滑らかで、スタジオモニターレベルの正確さと明瞭さを実現します。さらにこのドライバーは、非常にスムーズな過渡応答特性を持ちます。優れたコンポーネントを採用し続ける Mackie 製品のファンにならずにはられません。

さて続けますが、ドライバーは一時的なピークによるダメージを防ぐため、独自のコンプレッション回路を搭載しています。コンプレッサーはユーザーからは基本的に見えない部分で働きます。

オーバーエクスカーション保護

パワーアンプ前段のサブソニックフィルターにより、超低域信号をカットすることができます。極端な低周波エネルギーはウーファーにダメージを与える可能性があります（オーバーエクスカーション）。

熱保護

全てのアンプは熱を生み出します。Thump GO は電氣的・熱処理的の双方にとって能率がよいよう設計されています。もしアンプがオーバーヒートしてしまった場合、内蔵されているサーマルスイッチが有効になり、信号をミュートします。

アンプが安全な操作ができる程度の温度まで下がったら、サーマルスイッチがリセットされ、Thump GO は通常のオペレーションに戻ります。

もしサーマルスイッチが有効になった場合、ミキシングコンソールのレベルを僅かに下げて頂き、アンプのオーバーヒートを避けるようにしてください。直射日光や熱を帯びるステージ照明などは、オーバーヒートの原因となる場合がありますので、ご注意ください。

AC 電源

Thump GO を接続するコンセントが、ご使用のモデルに適した電圧を提供することを確認してください。必要電圧を少し下回ってもスピーカーは作動し続けますが、フルパワーを発揮することはできません。接続された全ての機器に対して必要な電力を確保できているか確認してください。

アンプは AC ラインに高い電力を要求するので、堅実で強力な AC 電源を供給することをお勧めします。供給される電力が多い程スピーカーの音量は大きくなり、ピーク出力が増大してクリーンかつ迫力のあるベースサウンドを得ることができます。ベースサウンドが迫りに欠ける場合、原因の多くはアンプに供給される電力不足が考えられます。



電源コードのグランドピンやスピーカーの部品は絶対に取り除いたり取り外したりしないでください。大変危険です。

お手入れとメンテナンス

Thump GO は、下記のガイドラインに従って使用されている限り、長年にわたって信頼性の高いサービスを提供します。

このスピーカーを霧にさらさないでください。屋外へ設置する際は、雨を避けるようにしてください。

極端に温度が低い場所（氷点下）に置かないでください。気温が低い場所で使用しなければならない場合は、高出力で動作させる前に 15 分ほど低いレベルの信号を送って、ボイスコイルを温めてください。

キャビネットのお手入れには、乾いた清潔な布だけをお使いください。また、電源が確実に切れていることを確かめてください。キャビネットの開口部から霧を内部に侵入させないように注意してください。特にドライバーが入っている部分には注意してください。

設置について



WARNING: 設置は必ずプロの技術者が行うようにしてください。不適切な機器の設置は、機器の破損や人体に被害を与えたり、最悪の場合死亡に至る場合があります。スピーカーは必ず安全の確認が取れている場所に設置して頂き、建物や人間を与えることを避けてください。

Thump GO は PA 用メインスピーカーやモニター用途として、フロアやステージ上に設置できるよう設計されています。またキャビネットの底面のソケットを使用してポールマウントすることも可能です。スタンドがスピーカーの重さに耐えられるかどうか必ず確認を行ってください。T100 はスピーカースタンドとして最適な選択で、SPM200 はサブウーファー併用時におすすめです。

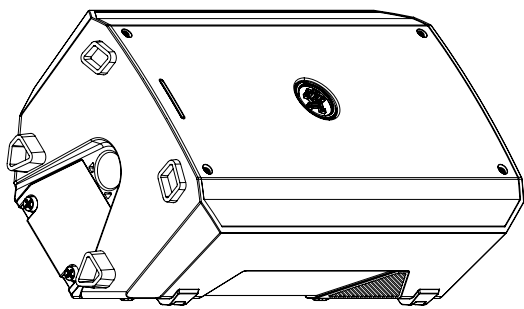


スピーカーのハンドルを利用して吊り下げことは絶対にしないでください。Thump GO はフライポイントを装備しておらず、吊り下げでの設置はできません。

スピーカーを設置する表面（床など）に関して、スピーカーの重さに構造的に耐えることができるか確認を行ってください。

スピーカーをポールマウントする際は、落下したり倒れたりすることがないか十分に確認を行ってください。これらの手順を守って頂かないと、機器の破損や人体に被害を与えたり、最悪の場合死亡に至る場合もあります。

水平方向に床置きすることで、45°の傾斜があるステージモニターとして使用することもできます。これはスピーカーがV字型となっており、ステージのような硬い床において使用する際に最適です。



モニターとして使用する場合、Running Man ロゴは回転させて使用してください。

電源を内蔵する機器と併用する場合は、湿気を防ぐようにしてください。悪天候時にスピーカーを設置しないでください。屋外へ設置する際は、雨を避けるようにしてください。

ルーム・アコースティックス

Thump GO はほぼ全てのアプリケーションに対応できるよう設計されています。

しかし、部屋の響きというものはシステム内のサウンドを決定付ける上で重要な役割を果たします。一方で広い範囲に高域の音を届けることができる Thump GO は、部屋の響きによる問題を最小限まで抑えることができます。

以下はよくある部屋の響きの問題を解決するための設置テクニックです。ご参照ください。

- スピーカーを部屋の隅に設置した場合、低域が増幅され、サウンドがぼんやりしはっきりしません。
- スピーカーを壁際に設置すると、低域が増幅しますが、隅に設置した場合ほどではありません。使いようによっては低域を増幅させる一つの良い方法となります。
- スピーカーをへこみのあるステージフロアに直接置くことは避けてください。へこみのあるステージは一定の周波数帯に共鳴し、帯域のある部分に急激なピークを作ったり、または急激な降下部分を作ったりします。スピーカーの重さに耐えられるような頑丈なスピーカースタンドのご利用をお勧めします。
- 高域ドライバーがオーディエンスの耳の高さから 60 ~ 120cm 程高くなるようにスピーカーを設置してください（ダンスをしたり、立って聞いているオーディエンスにも音が届く余裕を作ってください）。高域は指向性が非常に限られていて、また低域に比べると非常に吸収されやすい特徴を持っています。高域はラウドスピーカーから直線的にオーディエンスの耳に届くため、サウンドシステム内の全体的なきらびやかさや明瞭さを担う役割を持っています。
- ジムやオーディトリウムなどといった反響しやすい部屋では、サウンドの明瞭さを保つのは容易ではありません。壁や天井、フロアなどによる複数の反射により、サウンドは制御しようがない状態になってしまいます。シチュエーションにもよりますが、反響を最小限に抑えることもできます。例えば、フロアにカーペットを敷いたり、カーテンで大きなガラス製の窓を覆ったり、壁にタペストリーを掛けたりするのが効果的です。

しかしながら、多くのケースではこういった方法を実践することができなかつたり、有効でない場合もあります。では、どうしたら良いのでしょうか。単純にシステムのレベルを上げるだけでは、反響もそれだけ増すため効果的ではありません。最も効果的なアプローチは、オーディエンスに可能な限り直接的にサウンドを届けることです。スピーカーから離れれば離れる程、反響するサウンドも目立つようになります。

後方のオーディエンスにもスピーカーが出来る限り近くなるように、戦略的な設置を行います。前方のスピーカーと後方のスピーカーの距離が約 30.5m 以上離れている場合、外部のディレイプロセッサーを使用して、タイム・アライメントをとってください。（音は 1 ミリ秒ごとに約 30 センチ進む為、30.5 メートル進む為には約 1/10 秒かかることとなります。）

付録 A: サービスについて

スピーカーに問題が発生した場合は、下記の「トラブルシューティング」を参照して問題点をご確認ください。弊社のウェブサイトのサポートセクションをご覧ください。下記の内容に沿って状況を確認しても問題が解決しない場合、または明らかに製品が故障している場合は、ただちに使用を中止してこの製品をお求めの販売代理店まで修理をご依頼ください。

トラブルシューティング

電源が入らない

- 私たちの大好きな質問です。電源コードは接続されていますか？コンセントが電力を供給しているかテスターなどで確認してください。
- 次にお気に入りの質問です：電源スイッチをオンにしましたか？そうでなければ、スイッチをオンにしてください。
- 電源ケーブルがソケットの奥までしっかりと挿し込まれていますか？
- フロントパネルの電源 LED は点灯していますか？点灯していない場合は、コンセントから電力が供給されているか確認してください。点灯している場合は、下記の「音が出ない」をご覧ください。
- 内部の AC ラインヒューズがとんでいませんか？これはユーザーご自身で対応できる症状ではありません。AC ラインヒューズに問題があることが疑わしい場合は、次の「修理」のセクションをご覧ください。

音が出ない

- 入力レベルを絞っていませんか？システム内の全てのボリュームコントロールが適切に調整されているか確認してください。ミキサーのレベルメーターを見て信号が入力されているかを確認してください。
- シグナルソースは機能していますか？ケーブルに問題がないこと、両端でしっかり接続されていることを確認してください。ミキサーなどの出力レベルコントロールが、このスピーカーの入力をドライブするのに十分なだけ上がっていることを確認してください。
- ミキサーのミュートがオンになっていないか、またプロセッサのループが有効になっていないか確認してください。このような状況の場合、問題の機器を外す前に必ず音量 / ゲインを下げてください。
- シャットダウンされていませんか？スピーカーの背後に少なくとも 15cm のスペースを空けるようにしてください。

音が良くない

- 音量が大きくて歪んでいますか？信号経路で過大入力となっている原因がないかを確認してください。システム内の全てのボリュームコントロールが適切に調整されているか確認してください。
- 入力コネクタが端子に最後までしっかりと挿し込まれていますか？全ての接続に問題がないことを確認してください。

ノイズが出る

- スピーカーに接続している全ての機器の出音に問題がないことを確認してください。
- 信号ケーブルを電源コードや電源トランスなど電磁干渉を発生するものの近くに設置しないでください。
- スピーカーと同じ電源回路に、照明用のディマーや SCR ベースの機器を接続していませんか AC 電源フィルターを使うか、スピーカーを別の AC 電源回路に接続してください。
- Thump GO は D 級パワーアンプを搭載し熱効率を大幅に改善、コンパクトながらハイパワー出力を実現しました。消費電力を抑え、省エネで運用が可能です。ただし D 級アンプは PWM（パルス幅変調）によってスピーカーを駆動しオンとオフを繰り返して切り替えることで出力される電力を制御します。このことにより高調波ノイズがどうしても発生します。無音時に聴こえる「サー」といったノイズは仕様の範囲内のノイズで、故障ではございません。音楽再生時にはこのノイズは気になる程度ではない設計を採用しております。

ハム

- 入力端子に接続したケーブルを抜いてください。これでノイズが消えた場合は、スピーカーに問題があるのではなく、グラウンドループによるノイズが発生しているのかもしれません。以下のトラブルシューティングを試してみてください。
- ノイズを最大限除去するため、システム全体をバランスで接続してください。
- 可能な場合は音響機器の電源コードを全てコモングラウンドを共有するコンセントに接続してください。コンセントとコモングラウンドの距離は可能な限り短くしてください。

Bluetooth / リンク

- Bluetooth やスピーカーリンクに関する問題が起きた時は、昔から行われている伝統的手法が効果的です。要するに一旦再起動することです。ソフトリセットとハードリセットの 2 種類があります。Thump GO のリセットの詳細については、P.16 をご参照ください。
- Bluetooth で接続する前に、2 台の Thump GO ラウドスピーカーをリンクさせてみてください。
- スマートフォンなどのデバイスを Bluetooth で接続する場合は、1 台目のスピーカーにのみ接続してください。

ご不明な点は・・・

- mackie-jp.com にアクセスしてサポートの項目を確認してください。
- support_mackie@otk.co.jp までメールをお送りください。

付録 B：技術情報

Thump GO 仕様

音響特性

周波数特性 (-10 dB)	50 Hz – 20 kHz
周波数特性 (-3 dB)	57 Hz – 20 kHz
水平放射角	90°
垂直放射角	60°
最大 SPL ピーク	115 dB
モニター角度	45°

トランスデューサー

低域ドライバ	8 in / 203 mm フェライト
高域ドライバ	1.0 in / 25 mm ポリマー コンプレッションドライバ

アンプ

システム定格出力	200W Peak
パワーアンプ [低域]	
定格出力	175W Peak
THD	<1%
冷却	対流式
動作方式	クラス D
パワーアンプ [高域]	
定格出力	25W Peak
THD	<1%
冷却	対流式
動作方式	クラス D

システムプロセッシング

ボイシング	4 種類
-------	------

入力 / 出力

入力タイプ	XLR メス /TRS コンボ× 2 ステレオミニフォン Bluetooth
マイク - ラインインピーダンス	20 k Ω バランス
XLR / TRS	20 k Ω バランス
出力タイプ	XLR オスバランス (THRU)
THRU 出力インピーダンス	150 Ω バランス

Bluetooth

Bluetooth プロトコル	5.0
Bluetooth 機能	オーディオストリーミング /UI コントロール
電波法 工事設計認証番号	 R018-220145

電氣的クロスオーバー

クロスオーバータイプ	24 dB/octave
クロスオーバー周波数	2.2 kHz

電源

着脱可能電源コード	100 - 240 VAC, 50 - 60 Hz, 75W
AC コネクター	3-PIN IEC 250 VAC, 10A オス
電源タイプ	スイッチモード

保護機能

入力保護	リミッター (RMS, Peak) 電源, アンプ温度保護
ディスプレイ LED	VOICING MODES, OUTDOOR MODE, MUSIC DUCKING, FEEDBACK ELIMINATOR, FRONT LED, PAIR, LINK, OVERLOAD, Battery

バッテリー

バッテリータイプ	リチウムイオン
バッテリー寿命	最大 12 時間
充電時間	3 時間 (信号なし) 4 時間 (信号あり)
容量	5200 mAh
公称電圧	14.8 V
通常動作温度	15 ~ 35°C
充電時動作温度	0 ~ 45°C

物理仕様

基本デザイン	左右非対称
材質	ポリプロピレン
仕上げ	黒色成形
グリル材質	耐候コーティングパンチングメタル
グリル仕上げ	黒色パウダーコート
ハンドル	1 個
動作温度	0 ~ 40°C

寸法・重量

高さ	457 mm
横幅	230 mm
奥行き	285 mm
重量	8.0 kg

取付方法

フロアマウント、もしくはキャビネット底面のソケットを使ったポールマウント (使用するポールの耐荷重を必ず確認してください) が可能です。
リギングポイントはないため、ワイヤーを使用した設置などは行わないでください。また、スピーカーのハンドルを利用して吊り下げるとは絶対にしないでください。詳細は P.18 をご参照ください。

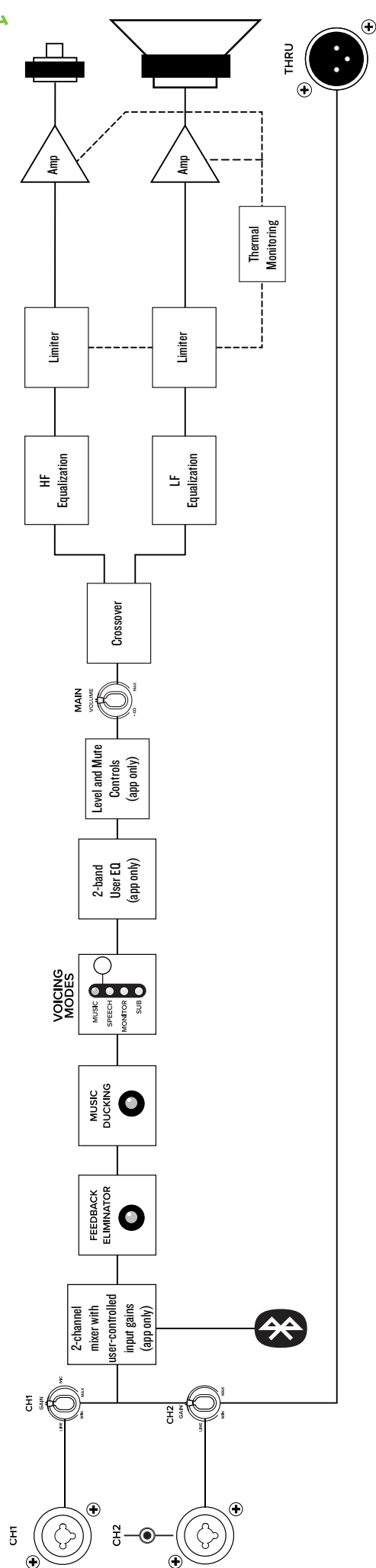
オプション

Thump GO Bag	P/N 2053622
Replacement Battery	P/N 2053625
T100 Loudspeaker Tripod Stand	P/N 2052464
SPM200 Loudspeaker Pole Mount	P/N 2035170

LOUD Audio 社は、常に新しい素材、部品、製造方法を取り入れて製品を改善するよう努めているため、製品の外観及び仕様は予告なく変更することがあります。

「ランニングマン」、「Running man」は LOUD Audio 社の登録商標です。他の商品名または会社名は各社の商標または登録商標です。

Thump GO - ブロックダイアグラム



Thump GO - 寸法図

